

# 平成 24 年度 博物館実習

9月5日(水)から12日(水)までの延べ7日間、学芸員資格取得を目指す大学生・大学院生12名が当館において博物館学芸員実習を受講しました。実習生の皆さんは資料整理から教育普及事業、展示制作と多岐にわたる博物館の仕事を体験しました。その集大成となる寄贈品コーナーの展示、ぜひご覧ください。



民俗資料の写真撮影を学ぶ実習生

## 博物館実習生制作

### 歴史 ～星と365日～

会期：9月13日(木)～10月30日(火)

毎年、平塚市博物館ではこの時期、寄贈品コーナーを利用して博物館実習生たちによる企画展示が行われています。

今年、私たちは「歴史 ～星と365日～」という展示を制作しました。“れきし”は本来“歴史”の字を用いますが、今回の展示では「日本の暦の歴史」に焦点を当てています。

ふだん私たちが接しているスケジュール帳やカレンダー。そこにある暦にポイントを置き、日本の暦の歴史を紐解いていきます。実際、太陰暦や太陽暦、旧暦などといった単語は目にしたことはあれど、どのようなものかまで考える人は少ないのではないのでしょうか。日本が昔どのような暦を使っていたのか、いつから日本独自の暦を使い出し、いつ頃から世界共通の暦となったのでしょうか。これを少しのきっかけとして日ごろ疑問にも思わず受け入れているものを改めて知っていただければと考えています。



渾天儀の模型を製作中

展示では、日本の暦を動かした安井算哲とその時代以降の変わり続ける暦の流れを追っていく形になっています。また、地域を限定して使用されていた暦の実物が展示してあります。江戸時代に暦を作るために天体観測をした道具の紹介や実習生が再現し作った模型も展示しました。ある時期を境にガラリと変わる日本の暦。世界の暦から日本独自の暦へ、そして今でも使われている旧暦や季節の話といった慣習、言い回しの流れを楽しんでください。ゆるキャラ、やすいくんが待っています。



完成した展示と実習生一同

(東海大学 宮下 華穂)